

第3章 臨海部の都市交通の目指す姿と基本方針

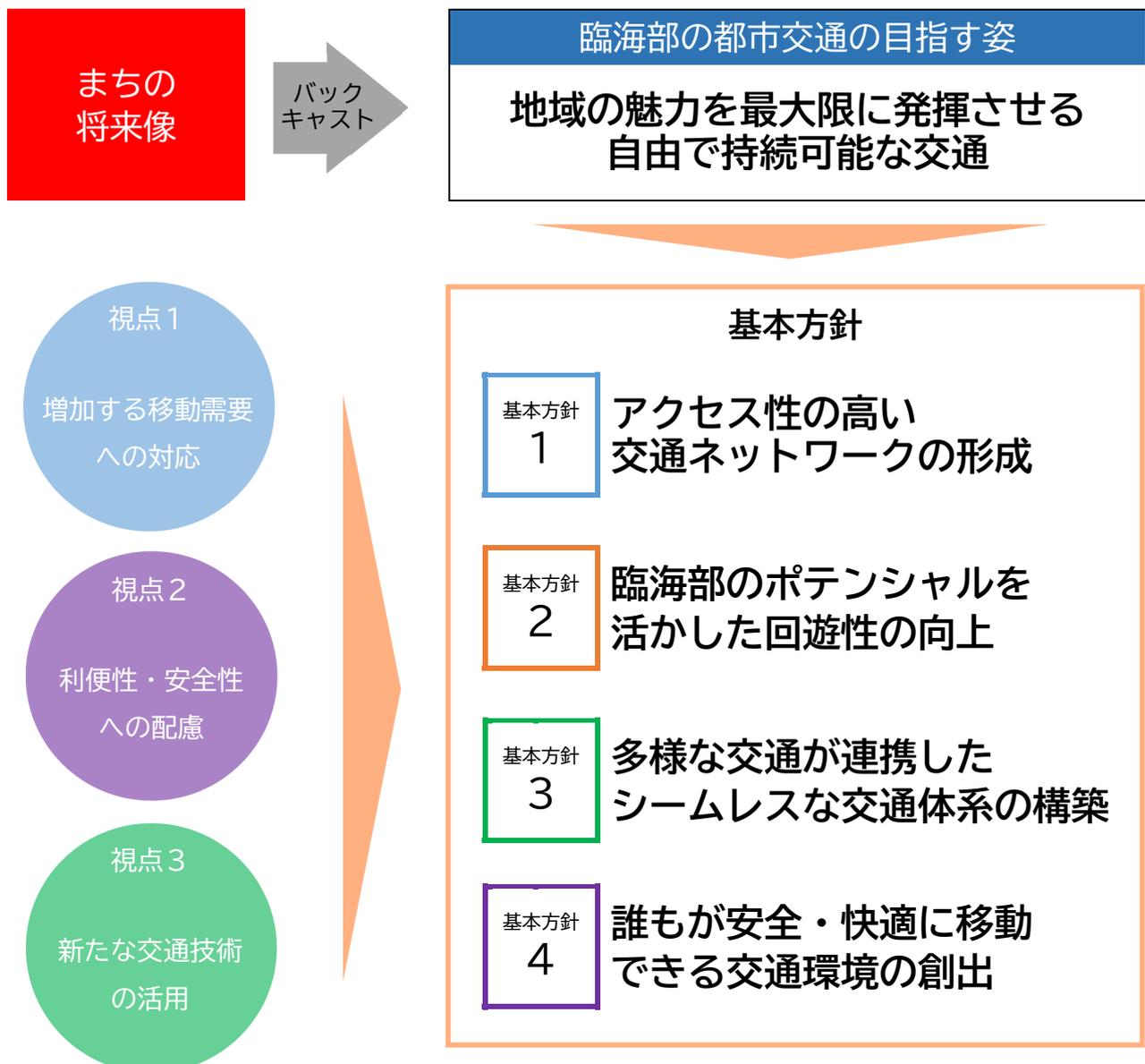
3.1 都市交通の目指す姿と基本方針

本ビジョンは、上位・関連計画で描かれている将来の臨海部に必要な交通を検討するバックキャストの手法を取り入れています。

今後、臨海部では、地域の持つポテンシャルを活用したまちづくりが更に進展し、今以上に多様かつ多くの人々が集う地域になることが想定されます。

そのため本区では、まちの将来像に相応しい臨海部の都市交通として、地域の特性や魅力を活かしたまちづくりの支えになるとともに、誰もが安全・快適に臨海部とのアクセスや臨海部内の回遊が可能で、多様な交通を自由に選択できる「人中心」の交通を目指すこととし、その目指す姿を「地域の魅力を最大限に発揮させる自由で持続可能な交通」と掲げます。

また、臨海部の都市交通の目指す姿を実現するための基本方針として、第2章で整理したまちの将来像を見据えた都市交通の視点を踏まえた四つの方針を設定します。



基本方針

1 アクセス性の高い交通ネットワークの形成

まちの魅力向上による来訪者の増加や、新たな開発等に伴い将来増加する移動需要に対応した臨海部内外を結ぶ輸送力を確保します。

2 臨海部のポテンシャルを活かした回遊性の向上

臨海部の拠点間をつなぐ交通手段や、拠点周辺を移動できる交通手段の確保により、臨海部内の回遊を促進します。

3 多様な交通が連携したシームレスな交通体系の構築

既存公共交通や新たなモビリティ等の多様な交通手段をハード・ソフト両面でシームレスに接続させることにより、利便性の高い交通体系を実現します。

4 誰もが安全・快適に移動できる交通環境の創出

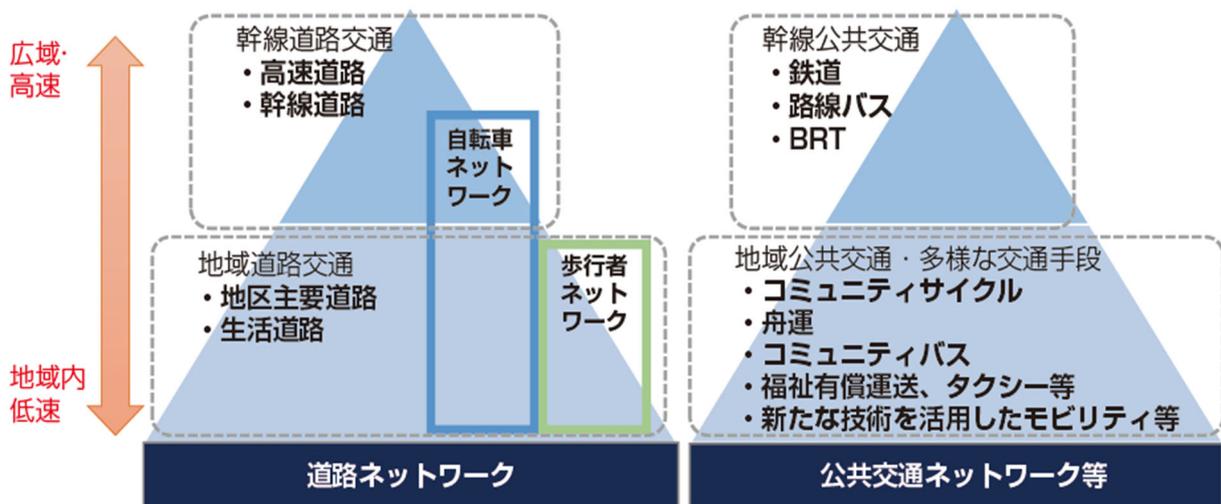
居住者・通勤者・国内外からの来訪者等のあらゆる人々と物が安全・快適に移動できる交通環境を整備します。

これら四つの基本方針に基づいた取組みを進める際には、環境負荷低減や災害時のリダンダンシー※の確保に留意することとします。

※自然災害等による障害発生時に、一部区間の途絶や一部施設の破壊が全体の機能不全につながらないように、予め交通ネットワークやライフライン施設を多重化したり、予備の手段が用意されている状態

なお、区内の交通体系については都市計画マスタープランにおいて示しており、臨海部の都市交通の目指す姿や基本方針を踏まえながら、交通体系の強化・充実を図ります。

区内の交通体系

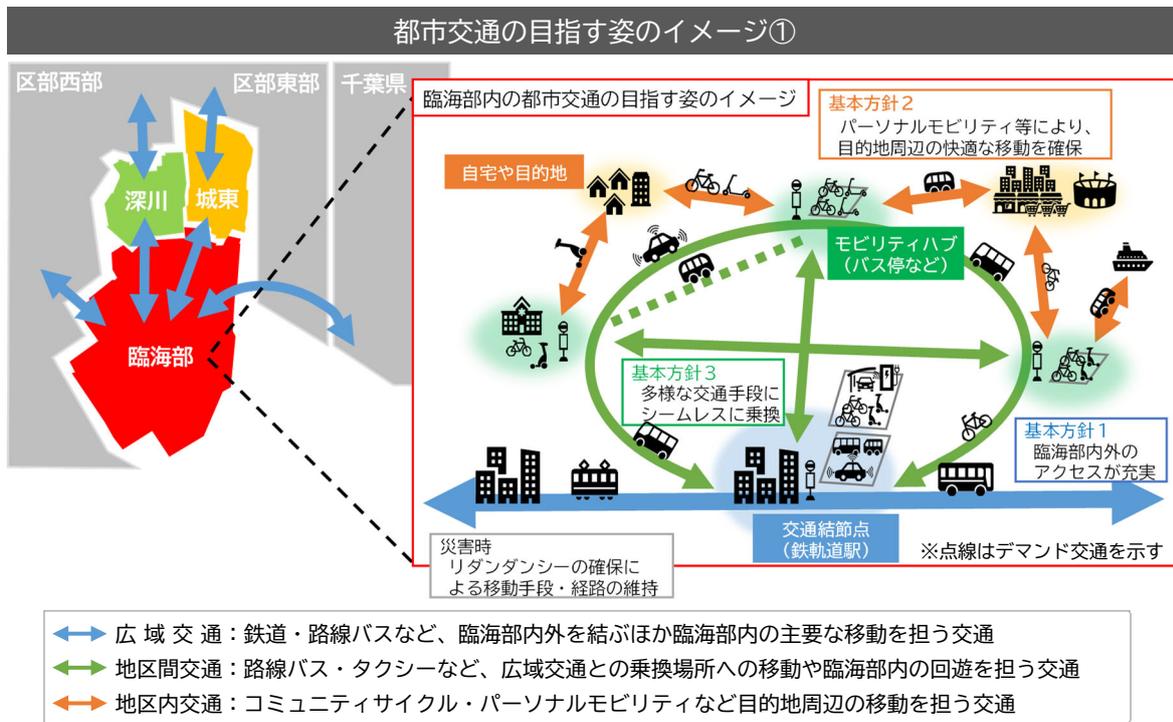


出典：江東区「江東区都市計画マスタープラン2022」（令和4年）

3.2 都市交通の目指す姿のイメージ

臨海部内外を結ぶ鉄道等の広域交通、臨海部内を結ぶ路線バス等の地区間交通、自宅や目的地周辺の移動を担うパーソナルモビリティをはじめとした地区内交通の充実により、アクセス性・回遊性を向上させるとともに、これら多様な交通手段のシームレスな接続を図ります。

安全性や快適性にも配慮し、出発地から目的地まで、誰もが自由に多様な手段や経路で移動できる都市交通を目指します。これにより、平時の移動の自由度を高めるとともに、災害時のリダンダンシーの確保にも努めます。



将来の臨海部の都市交通においては、都市計画マスタープランにおける都市核・広域核の交通結節機能強化や多様な交通手段の導入により、湾岸軸※を強化し、臨海部内及びその周辺地域を自由に移動できる環境を形成します。

また、地下鉄8号線の延伸や都心部・臨海地域地下鉄の整備等により南北都市軸が強化され、臨海部と深川・城東地域等とのアクセス性が向上します。

※軸：都市機能や拠点が連なる、公共交通・幹線道路ネットワーク

